

平成27年3月

# 斧山巧 学位論文審査要旨

主 査 長谷川 純 一  
副主査 松 浦 達 也  
同 村 脇 義 和

## 主論文

Therapeutic effects of the dipeptidyl peptidase-IV inhibitor, sitagliptin on non-alcoholic steatohepatitis in FLS-*ob/ob* male mice

(FLS-*ob/ob*雄性マウスでのDPP-IV阻害薬シタグリプチンの非アルコール性脂肪肝炎に対する治療効果)

(著者：斧山巧、孝田雅彦、岡本敏明、木科学、的野智光、杉原誉明、村脇義和)

平成27年 Molecular Medicine Reports 掲載予定

## 参考論文

1. Hepatitis B and C virus infection is a risk factor for the development of cholangiocarcinoma

(B型肝炎ウイルス及びC型肝炎ウイルス感染は胆管癌発症の危険因子である)

(著者：松本和也、斧山巧、川田壮一郎、武田洋平、原田賢一、池淵雄一郎、植木賢、三浦典正、八島一夫、孝田雅彦、坂本照尚、遠藤財範、堀江靖、村脇義和)

平成26年 INTERNAL MEDICINE 53巻 651頁～654頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は非アルコール性脂肪肝炎モデルマウスを用いて、DPP-IV阻害薬であるシタグリプチンの治療効果を脂肪代謝及び肝線維化の面から検討したものである。その結果、シタグリプチンは高血糖を改善し、体重を減少させたほか、肝脂肪化や酸化ストレス、炎症関連及び線維化促進遺伝子の発現を抑制し、肝線維化を抑制した。本論文の内容は、病態生理学、薬理学の分野で非アルコール性脂肪肝炎において、DPP-IV阻害薬の作用機序の解明とその有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。